

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人善光寺大本願福祉会基本理念、川田の宿基本理念及び運営規定に理念を定めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念をリビングに掲示すると共にケア会議で理念の確認をしている。また、理念を指針としケアプランに活かし、事業計画にも反映している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を活かした事業計画書及び運営推進会議の会議録を送付し理解を深めていただく工夫をしている。また、地域の代表者による運営推進会議にて理念、運営、ケア等についての説明をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣のボランティアの訪問や散歩で出会う隣近所の人々と声を掛け合うなど交流を深めている。また、地区役員や入居者の知人である近隣者の面会時には、立ち寄って頂きお茶等で交流している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の一員として自治会に加入。区費を支払っている。また、総会等に出席すると共に地区の作業にも参加している。お祭り、運動会等の行事に参加し交流を深めている。	

グループホーム川田の宿・南棟椿

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>認知症専門施設として地域の相談受付や情報発信ができるよう、研修会や書籍等で知識の醸成を図り能力の向上に努める。また、今年度、広報誌を活用し認知症についての情報を発信する計画である。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>自己評価、外部評価の報告・協議は今年度の計画に定めている。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>地域権利擁護事業、成年後見制度についての内部研修を実施し、知識及び意識の醸成を図りたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、契約書及び重要事項説明書を用い説明を行い理解、納得を得ている。また、不安、疑問点については重点的に説明し解決を図っている。長期治療による退所（解約）時には、継続した相談やアドバイスを実施することを説明し不安の回避に努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	認知症高齢者の特質を踏まえ会議等での意見表明でなく、日々の生活の中で訴えることができる関係作りに努めている。また、入居者主体のケアを介護の基本としている。長野市より「介護あんしん相談員」の派遣を受け外部者へ意見を表明することのできる機会を設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回、家族へ領収書、請求書を送付する際、入居者の生活の様子や健康状態、金銭に関する事柄を適宜文章にて送付している。また、希望者にはeメールにて連絡をしている。行事や全体に関することは事業所より短信や広報誌にて情報を伝達している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口設置要綱を定め（苦情申し出窓口設置等）、契約時に文書にて説明している。また、契約書にも同様の説明を記載している。苦情の訴えはないが、質問等には丁寧な説明に心掛けている。第三者評価の家族アンケートの結果を真摯に受け止め、運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議（リーダー会議・ケア会議）及び個人面談、日々の引継ぎ等での意見について問題点・課題を整理し検討している。特に入居者の状態については、職員が最も関わりが深いことを尊重し、意見を傾聴することを心掛けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者、介護支援専門員は柔軟な対応を行なうことができるような勤務体制に努めている。（基準以上の体制）また、必要時には勤務調整及び超勤対応を行なっている。	

グループホーム川田の宿・南棟椿

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	地域の同業者と交流を図り、ネットワーク作りや勉強会等を実施したい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居決定に当たっては、自宅等を訪問し入居希望者及び家族と面談を実施。その際、心身の状態の他、悩みや希望を聞き取ることで理解を深め、入居前後の関わりに反映させている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みに当たっては、電話での受付の場合は面談を実施し申し込みを受理している。面談では必要な時間を掛け十分な情報を聞き取ると共に、家族の抱えている悩みや不安を受け止める努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態と生活状況等について把握する中で、必要と思われる支援を見極め、アドバイス等を実施している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による自宅訪問時（面談）、パンフレット等を用いグループホームについての説明を実施している。（ケースによっては逆効果となる場合がある。）また、可能な限り本人の見学を勧め、理解、了解を得る工夫をしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中、共に暮らしているという意識を入居者、職員共持ち生活している。“もうひとつの我が家”というのが当ホームのコンセプトである。短期記憶を失いがちであるが、人格や性格、知識、経験は豊富であることを実感している。教えあう関係を築き、支えあっている。	

グループホーム川田の宿・南棟椿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の生活の問題点、課題のみならず、喜ばれたことや楽しまれたことなどをお伝えし、相談、協力しながら生活を支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居申込みや入居前面談時及び介護支援専門員等からの情報により、家族関係を理解した上でケースに応じた支援を行なっています。また、家族の役割りを感じていただくような働きかけを行なっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人など親しくしていた方々との関係が継続するよう支援しています。また、本人の意向（会いたい人、行きたいところなど）を家族に伝えたり、来訪者との関係作りに配慮している。	○	今までの生活が継続できるよう更に継続したい。（情報の収集、受け入れについてのPRなど）
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やお茶会、余暇の際など共に楽しい時間を共有することができるよう、職員が個々の認知症状や人間関係を理解し関係作りや場作りに努めている。また、認知症等の理由により批難、孤立しないよう配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期治療による退所者（契約解除）に対し、退所後のサービス利用等について可能な限り相談に乗る旨をお伝えした。（その後、死亡）		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思や希望を尊重した支援を実施している。また、家族の希望も参考にしているが、本人主体の支援をケアの基本としている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込み情報や面談等で情報の把握に努めている。また、入居後の本人、家族からの話しや聞き取りにも重点を置いている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしい生活を送っていただくために、アセスメントや情報把握を通し状態や状況を総合的に把握するよう努めている。心や身体の症状が相互的に作用することを理解し行なっている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を日々把握すると共に家族への説明、相談の際、ケア等への希望を確認するよう努めている。また、居室担当を始め職員の意見を介護計画に反映している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	平成19年より6ヶ月に1回介護計画を作成するように改定した。また、見直しが必要な場合は、この限りではないと定めている。	

グループホーム川田の宿・南棟椿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年度より介護計画に基づく記録方法に改定した。ケアプランの実践、結果等について記録、把握しやすいと思われる。今後介護計画の見直しに活かしたい。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方に在住しているケースや急な受診時など事業所で対応している。柔軟な対応を行なうことができるような体制や工夫を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お花見外出やおやつ作り、季節の行事（繭玉・やしょうま作りなど）の際、ボランティアの協力を得ている。また、消防署の指導による消防訓練を実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望はないが、入居前に利用していた事業所を訪問したり、お祭りなどのイベントに参加したことがある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ、必要なケースは無いが運営推進会議の委員として、会議に参加していただいているため、今後協働していき易いと思われる。		

グループホーム川田の宿・南棟椿

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

グループホーム川田の宿・南棟椿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージを考慮し環境、人間関係に配慮した。環境については、趣旨を説明し家族、関係者と協議の上、家具等の整備を図った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩である高齢者に対し、自尊心を傷つけるような言葉掛けや対応をしないことをケアの基本としている。プライバシーの尊重、守秘義務は、研修等で徹底を図っている。(同意書)守秘義務については契約内容であり、また、家族等へ説明し情報伝達の際の同意を文書にて交わしている。広報の記事等も同様な対応を実施。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活行為や援助に対し、説明、同意を得てから実施している。自分の意思や考え決めるという力を尊重している。しかし、認知症状による意思の疎通が難しいケース(混乱時)については、表情や素振りなどから判断して気持ちを汲み取るように配慮している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	誕生会や外出、行事などの日課がある時以外はその日の天候や入居者の皆さんの希望を反映したり、職員の提案により生活を送っている。トランプや折り紙、野菜の収穫、散歩などの希望がある。また、寝ていたい時や延食したい時なども支障がない範囲で意向を尊重している。		
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容については、本人の希望に沿って実施している。認知症により拒否したり、必要性を感じた時は無理のない範囲で働き掛けている。以前、理容店の利用をしたことがあったが、現在は訪問美容を利用している。今後再開の必要性を感じている。身だしなみについては、感想を述べるなど意識するような働き掛けを行なっている。	○	男性入居者の理容店での散髪を援助したい。女性についても生活範囲の拡大に繋がるので、希望に応じた援助を実施したい。

グループホーム川田の宿・南棟椿

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>過去の職業や趣味、性格、生活への想いを把握、理解した上で、役割りや楽しみのある生活となるよう支援している。また、ホームだけの生活とならないよう散歩や買い物、地域行事への参加、観光地への外出等で気晴らしを図っている。</p>

グループホーム川田の宿・南棟椿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理は希望と状態に応じて行なっている。しかし、記憶障害がある入居者が多く、状態に応じた対応（外出時に金銭を渡すなど）を行なっている。また、金庫でお金を預かっていることを適宜説明し、安心頂くなどの配慮をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換や希望に応じた外出、散歩を実施している。買い物で気持ちが晴れる場合には、食材の買い物に同行いただき食材を選んだり、希望の品を購入していただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望外出（観光地など希望の地へ）は年2回実施。地域行事（地区のお祭り、運動会など）へは適宜参加。また、誕生日はホーム内での祝会や外出し会食するなど個々の希望や状態に応じて実施している。状況によりご家族へ声をお掛けする事がある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を希望することは少ないが、家族からの電話の際には話しができるよう支援している。また、不穏時家族と話すことで精神が安定する事があるため、状態に応じて連絡している。手紙のやり取りの希望はないが、年賀状を一緒に作成し住所等の代筆援助によりご家族へ年賀状を出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族等が気軽に訪問できるよう配慮している。また、面会時にはお茶等をお出しし接待すると共に、日々の生活の様子を説明するなどコミュニケーションに努めている。（個人情報に留意しながら実施）		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止について法令遵守と理解の下、重要事項説明書にも明記。家族等への説明、職員の知識の醸成に活用している。		

グループホーム川田の宿・南棟椿

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	職員全員が定期的に消防署主催の講習会へ参加したい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

グループホーム川田の宿・南棟椿

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居契約時及び面会の際、個々の状態におけるリスクや日頃の生活の様子について家族等に説明している。自分らしく暮らして頂くための話し合いや情報交換をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや食事量、排泄状況、精神状態などから体調の変化や異変に気付くよう注意している。また、それらの情報を職員が共有し、緊急時は上司に報告、連絡、相談（ホウレンソウ）の上、対処している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は薬局より薬状が発行されるので、薬の目的、副作用、用法等について理解し支援を実施。病状の変化については、状態の把握に努め、記録、報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘は心身に大きく影響するので、便秘の予防として食物繊維を摂取するような献立としている。また、運動不足が原因となる事ので、体操や散歩で身体を動かすようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔洗浄は一日に一回以上行なうよう支援しています。毎食後という習慣が余りないため、定着しない状況です。	○	習慣化できるよう、働きかけを行ないたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の偏りや摂取量の把握に努めている。また、適切な栄養等が摂れるよう食材の工夫や嗜好を活かしている。水分は便秘の原因となるので、個々の水分摂取に留意している。食欲不振者には、様々な工夫を行なっている。		

グループホーム川田の宿・南棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症や対応策についての情報を収集し、指針や対応策として活用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の危険性を職員共通の問題として捉え、まな板、布巾等を毎日消毒している。また、食材は毎日新鮮な品を購入している。冷凍食品は取り扱いの基本を守り（再冷凍しない）なるべく早く食べるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は駐車場から見える場所にあり、また、個人の家庭のように玄関前に花の鉢を置き、訪問し易い工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな家庭のような雰囲気です。季節感のある手作りの飾りを展示したり、季節の花々を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチやソファが配置され、和室も多目的に活用できます。特にソファは不穏時や談笑をする際、活用されています。しかし、リビングテーブル椅子が落ち着き易く、また、立ち上がり易いためか自席に座る事がほとんどの方もおられる。		

グループホーム川田の宿・南棟椿

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホーム川田の宿・南棟椿

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症は早期発見・治療がその後の生活に大きく影響するため、家族へ説明し協力を得ながら専門医へ受診している。しかし、薬は認知症高齢者の心の安心、バランスを保つものであること理解し過度な服用とならないよう注意している。また、治療と共に、個々の状態に応じたケアの実践により認知症の維持、改善を図っている。職員は認知症について研鑽し原因や症状が異なる事を理解した上で、柔軟なケアを提供している。職員は入居者の記憶を失うという戸惑いや不安な気持ちを受け止めながら、顔なじみの入居者、職員との生活により“もうひとつの我が家”となる事を目標とした実践を行なっている。安心できる時間、楽しいひと時 …… “今を大切にしたケア”に取り組んでいます。